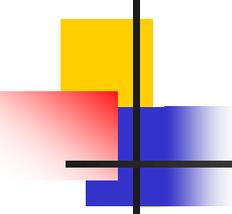


地域密着型金融の取組状況について (2019年度)

いつもあなたのそばに

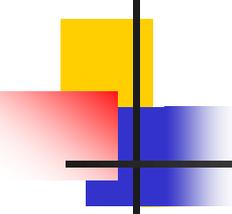




地域密着型金融の取組状況

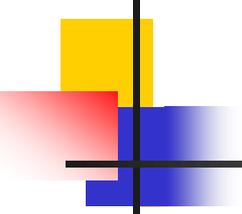
JAバンク岩手（県内JAと岩手県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、2019～2021年度JAバンク岩手中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

2019年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

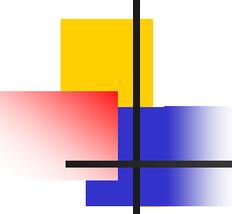


目次

- I. 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援
（JAバンク岩手の農業メインバンク機能強化への取り組み）
・・・P3
- II. 担い手の経営のライフステージに応じた支援
・・・P12
- III. 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底
・・・P17
- IV. 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献
・・・P19



**I. 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援
(JAバンク岩手の農業メインバンク機能強化への取組み)**



(1) 農業融資の円滑な取組み①

JAバンク岩手は、各種プロパー農業資金に対応するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

2020年3月末時点のJAバンク岩手の農業関係資金残高^(注1)は52,285百万円(うち農業経営向け貸付金35,094百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は7,522百万円を取扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関係する事業に必要な資金等が該当します。

(注2) JAバンク岩手が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、JA転貸分を含みます。

(1) 農業融資の円滑な取組み②

【営農類型別農業資金残高】

単位:百万円

類型	2020年3月末
農業	35,094
耕作	11,641
野菜・園芸	3,309
果樹・樹園野菜	810
工芸作物	479
養豚・肉牛・酪農	8,530
養鶏・鶏卵	104
養蚕	9
その他農業	10,212
農業関連団体等	17,191
合計	52,285

(注1)「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

(注2)「農業関連団体等」には、JAや全農(経済連)とその子会社等が含まれています。

(1) 農業融資の円滑な取組み③

【資金種別別農業資金残高】 単位:百万円

種類	2020年3月末
プロパー農業資金	37,233
農業制度資金	15,052
農業近代化資金	8,780
その他制度資金	6,272
合計	52,285

(注1)「プロパー農業資金」とは、JAバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

(注2)「農業制度資金」は、(1)地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、(2)地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク岩手が低利で融資するもの、(3)日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは(1)の転貸資金と(2)を対象としています。

(注3)「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 単位:百万円

種類	2020年3月末
日本政策金融公庫資金	7,522
その他	0
合計	7,522

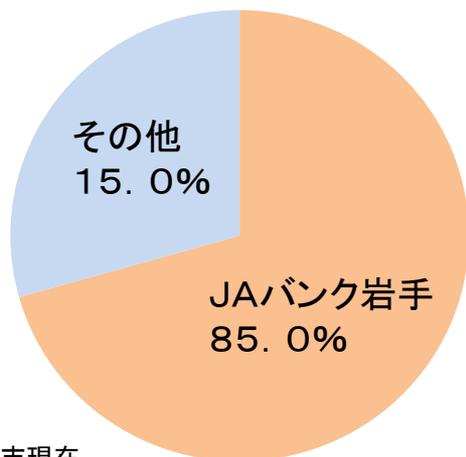
(注)JAバンク岩手では、主には県内JAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

(1) 農業融資の円滑な取組み④

JAバンク岩手は主要な農業関係の制度資金である農業近代化資金や日本政策金融公庫資金(公庫直貸除く)の取扱いにおいて、トップシェアとなっています。

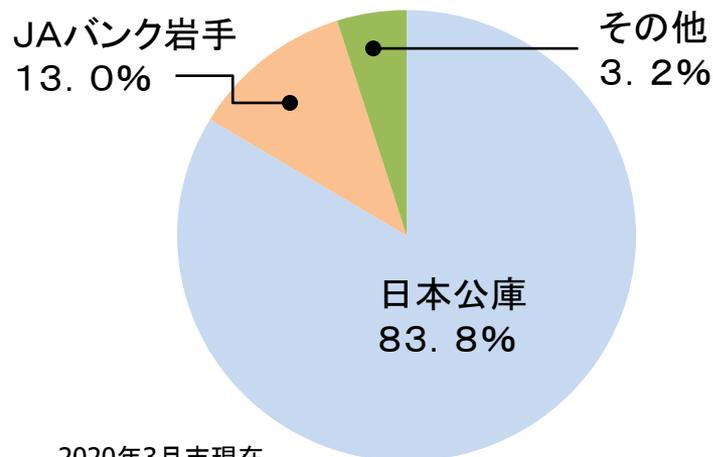
【岩手県の農業近代化資金および公庫農業資金の取扱いシェア】

農業近代化資金
融資取扱い残高シェア

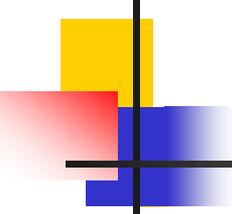


2019年12月末現在
出所:岩手県

日本政策金融公庫
農業資金取扱い残高シェア



2020年3月末現在
出所:日本政策金融公庫

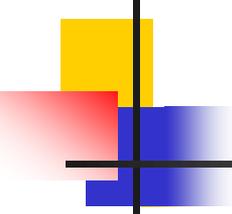


(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備①

JAバンク岩手では、地域の農業者との関係を強化・振興するための体制整備に取り組んでいます。

県内7JAおよびJA岩手県信連は、各本支店(所)に108名の豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を設置し、営農・経済担当者がお聞きした情報も含めて把握し、訪問、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。

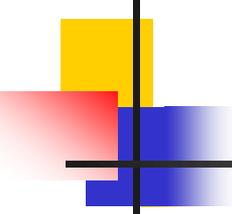
JA岩手県信連(JAバンク統括部)内に「農業金融センター」を設置し、JAが展開する推進活動の後方支援を一体的に行っているほか、担い手金融リーダーが行う推進活動へ同行し、バックアップしています。また、農業金融センター内にフリーダイヤルを設置し、担い手およびJA等からの相談に直接対応できる体制を構築しています。



(2) 担い手のニーズに応えるための体制整備②

JA系統独自の農業融資資格制度「JAバンク農業金融プランナー」の取得を奨励しており、有資格者は2019年度末時点で県内に143名誕生しています。

農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

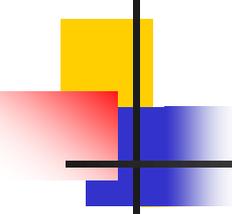


(3)JA内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、JA内事業間連携を強化しています。

【具体的取組事例】

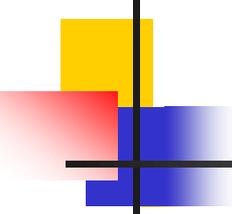
営農・経済事業の会議に担い手金融リーダーが参加し、農業者の情報共有やニーズへの対応を協議し、農業者への同行訪問を実施するなど、JAをあげて農業者の多様なニーズに対応しています。



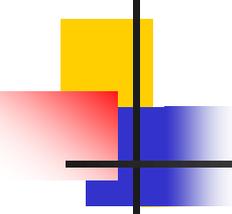
(4) 農業メインバンクCS調査の実施と結果の活用

JAバンクでは、JAの農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測（農業メインバンクCS調査）を行っており、総じて他金融機関に比べて高い満足度であるとの評価をいただいています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声に、より応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。



Ⅱ. 担い手の経営のライフステージに応じた支援



(1) 新規就農者の支援

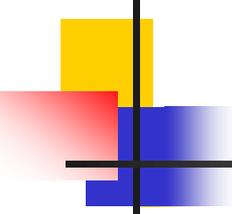
JAバンク岩手では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金などを取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

単位 件、百万円

	2019年度 実行件数	2019年度 実行金額	2020年3月末 残高
青年等就農資金	23	69	650
就農支援資金	—	—	68

(注) 就農支援資金の取扱いは平成26年9月末で終了しています。



(2) 農商工連携の推進

JAバンク岩手は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

【2019年度 商談会等開催状況】

商談会名	開催日	主催者	参加団体数	内容
いわて食の大商談会2019	2019年6月12日	岩手県	282社	<ul style="list-style-type: none">・県内外の外食および食品流通関係者等を招き、岩手県の食を県内外に広くPRするもの。・JA岩手県信連が主催者として参画。

(3) 講演会・セミナーの開催・参画

JAバンク岩手では、生産者や融資お取引先等を招いた講演会や情報交換会を開催し、異業種間の情報交流を促進しており、以下にその内容をご紹介します。

【2019年度 講演会・セミナー等開催実績】

講演会・セミナー名	開催日	主催者	対象参加者	参加者数	内容
第8回 JAバンク岩手農業法人経営者セミナー	2019年 11月15日	JA岩手県 信連	県内の農業法人経営者及びJA職員等	194名	題目：「新規事業は失敗の連続～理念に立ち返り克服する」 題目：「笑顔を耕す農園の挑戦」～ユニバーサル農業の可能性～
友信会セミナー	2019年 12月3日	友信会（JA岩手県信連）	JA岩手県信連融資取引先	84社	題目：「生き残る経営～今リーダーに求められるもの～」

(4) 経営不振農家の経営改善支援

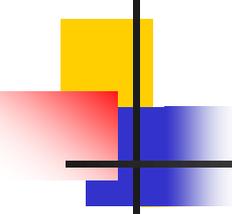
JAバンク岩手では、農家負担軽減支援特別資金の対応等にあたり、地域において特別融資制度推進会議を開催し、農業者の経営再建に向けて関係機関と協議しています。

【2019年度 農業者の経営改善支援等の取組み実績】 (単位:先)

		期初経営改善支援取組先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a/A	ランクアップ率 = b/A
正常先①		206	1		171	0.5%	
要注意先	うちその他要注意先②	104	2	9	88	1.9%	8.7%
	うち要管理先③	4	0	0	4	0.0%	0.0%
破綻懸念先④		65	53	6	54	81.5%	9.2%
実質破綻先⑤		74	0	0	68	0.0%	0.0%
破綻先⑥		2	0	0	2	0.0%	0.0%
小計(②～⑥の計)		249	55	15	216	22.1%	6.0%
合計		455	56	15	387	12.3%	3.3%

(注1) 経営改善支援取組先は、JA・信連が再生計画の策定など、経営改善支援に取組んだ先として指定したものをいいます。ランクアップ先とは、当期末の債務者区分が初期よりランクアップした先をいいます。債務者区分不変先とは、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先をいいます。

(注2) 県内JAからの報告を集計しております(JA岩手県信連含む)。



Ⅲ. 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、 担い手に適した資金供給手法の徹底

(1) 負債整理資金による経営支援

JAバンク岩手では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

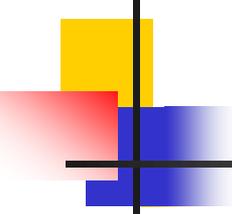
【2019年度 負債整理資金の貸出実績】

単位 件、百万円

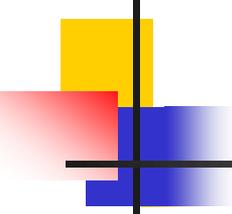
資金名	実行件数	実行金額	2020年3月末残高
負債整理資金	0	0	825
農業経営負担軽減支援資金	2	44	473
畜産特別資金	0	0	903
合計	2	44	2,201

(注1) 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

(注2) 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。



IV. 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献



(1) 食・農への理解促進①

JAバンク岩手は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する補助教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れなどに取組んでいます。

2020年度においては、県内のJAバンクを通じて、県下の小学校および特別支援学校(学級)318校へ教材本14,709部、DVD312枚が配布され、学校の授業等において活用されています。

(1) 食・農への理解促進②

県内JAでは、食農教育などの実践活動が取り組まれており、これらの取組みに対して、JAバンクアグリ・エコサポート基金から費用助成を行ってサポートしています。



岩手県教育委員会への教材本贈呈



贈呈した補助教材